



みんな揃って 八木節 運動会の練習はじまりました！

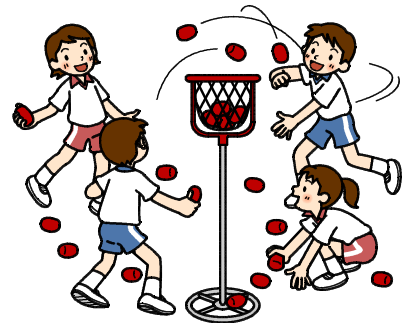
9月16日（火）朝の運動の時間に運動会で披露する「八木節」おどりの練習を全校児童で行いました。西小学校では、来月10月18日（土）の運動会に向けた準備や練習がこれから徐々に始まります。



【みんなで八木節の練習】

なお、当日は子どもたちが元気いっぱい活躍する姿を参観できるよい機会ですので、保護者の皆様はもちろんですが、地域の皆様も、ご都合の付く方は、西小へいらっしゃって子どもたちに声援を送ってください。保護者の皆様や地域の皆様にも参加していただける玉入れや八木節も予定しております。

運動会では、徒競走やリレーの順位や結果だけを気にしがちですが、練習を重ねる過程での子どもたちの成長する姿が最も大切であると考えています。運動が得意な子どもも、苦手な子どももいます。それぞれの記録や順位の目標も異なります。保護者の皆様には、結果だけでなく、どれだけ成長できたか？がんばれたか？を日々お子さんと対話し、評価・賞賛してあげてほしいと思います。



更生保護女性会ランチミーティング

9月24日（水）更生保護女性会から4名の皆様が西小を訪問してくれました。子どもたちの授業の様子を見ていただいたり、校長室で給食を試食していただいたりしながら、校長から今の学校の現状をお伝えし、知ってもらう機会となりました。参加された方々からは「子どもたちは、あんなに自由にタブレットを使いこなせるんですね！」「先生も新しいことをやらなければならないから大変ですね」「子どもたちから元気を頂きました」「給食おいしいですね」などの感想を頂きました。その後は、「更生保護女性会の私たちにできること」について意見交換を行いました。学校からは、皆さんが無理なく楽しく子どもたちと触れあえること、特技が活かされればさらに素晴らしいと、お伝えしました。



【ランチミーティングの様子】

来校された方々には、今日の感想も含め、会にもち返っていただき「私たちにできること」を検討していただくこととなりました。

※厚生保護女性会の方々には、毎月第2・4金曜日（雨天中止）に下校時の安全見守りをしていただいております。

運動会に新たな挑戦！応援合戦

今年度の運動会では、各団の結束を高め、みんなで仲良く、楽しく運動会を盛り上げようと各団の高学年のリーダーの子どもたちが中心となって、応援練習を行っています。

先生方の指導から少し手が離れたところで、「どのような応援がよいのか？」子どもたちが仲間と意見を出し合い、話し合い、そして、小さな子どもたちに教えることを通して、リーダーとしての素養を磨くとともに、子どもたちが自身が主役となる運動会の実施につながることを期待しています。



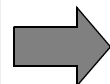
今年度の運動会のスローガンは

「みんなの絆は無限大」 です。

代表委員の児童が考えてくれました。

<お知らせ>

右のQRコードから西小のWebページをご覧いただくと、過去の「学校だより」等がご覧いただけます。



西小ホームページ

西小の取組紹介⑧

がんばっている西小の子どもたちや先生方を
紹介します！

世界陸上東京大会2025の次の主役は私たち！市陸上記録会に向け練習開始！



【練習前に先生から激励の言葉】

10月2日（木）に行われる桐生市小学校陸上競技会の放課後練習が本格始動しました。

高学年で、練習会に参加を希望する子どもたちとそれを応援する先生方が、日々記録の向上をめざしてがんばっています。練習会の初日、体育主任の先生から「みなさんこれから競技会に向けた練習を始めます！忘れ物はありませんか？大切なものをもってきましたか？」の問いに、戸惑う子どもたち…。すかさず体育主任の先生から「やる気！」です。「他校に負けない西小の誇りをもってきましたか？」との言葉がけに、子どもたちは背筋を伸ばし、目を輝かせて大きな声で「はい！」ととてもすばらしい光景でした。

私は中学校教員としての勤務が長かったためか、放課後の部活で目標に向けて日々がんばって練習する中学生の姿と重なって見えました。スポーツには、目標を設定しやすく自らの努力の結果が記録や数字に表れやすい特徴があると思います。何と言っても、子どもたちが仲間と切磋琢磨し、それぞれの目標に向かって練習に取り組む姿が美しく、そこに価値があるのだと思います。

がんばれ！西小の子どもたち！！

校長室から

「スマホが脳や学力に与える影響」って ③

ニンテンドー DS 用「脳トレ」の監修で著名な東北大学応用認知神経科学センターの榎浩平先生の講演会の概要を紹介する最終回（3／全3回）は、スマホとの付き合い方と家庭でのルールづくりについてです。（以下、講演会の概要です）

言葉の意味を調べるために「辞書を引く」と、「スマホで調べる」の違いを実験した結果、1分間で辞書では3つ、スマホでは5つとなった。タイパ（Time Performance）は、やはりスマホがよい。前頭前野の働きをCTで調べると、辞書は常に活発に働いているが、スマホでは脳内の前頭前野は全く働いていない。つまり、「スマホで調べる」作業は、脳が脳内メモリを使わなくてよい（省エネ）といった合理的な判断をしたということができる。そのため、脳には記憶に残らない。この結果から、私たちは、目的によって（鉄道路線図やカーナビなど）情報を知るだけでよいのか？それとも知識を得たいのか？を使い分ける必要がある。

○スマホ依存改善プログラムについて

9～18才の段階で自制心を身に付けることは一生の財産となる。学校でも様々な取組を行っているが、**スマホ依存の改善には、リアルな話し合い、子どもたちが決めるルールづくりの視点が大切**である。「スマホを使わない！」だけでなく、別の活動（運動・読書・趣味など）を新たに生活に取り入れることで**相対的にスマホ時間を減らす取組**もよい。

「スマホに子守をさせない！」（日本小児科医会）のチラシを見たことはあるだろうか。乳幼児からスマホ等のメディアに触れる時間を多くもつことで、睡眠・運動、言語・コミュニケーション、感情・自制心、思考力・判断力等（非認知能力）をつかさどる前頭前野の発達に大きな影響を与えかねないことを提唱している。また、「僕はスマホになりたい」という小学生の作文が、大きな社会問題になった。作者の小学生は、自分がスマホになれば、もっと親にかまってもらえるとといった切ない内容の作文である。

家庭でのスマホ依存改善のポイントは、①リスクを知る、②親子で話し合う、③ルールを3つ決める、④2週間チャレンジ、⑤ふりかえり、の5つである。留意するポイントは、親がルールを決めるはダメ、親も一緒にルールをつくり、互いに守る、つまり、親子が目線をそろえることが大切である。

スマホが奪う時間・体験・共有を大切にしてほしい。そして、子育てを楽しんでほしい。

私たち大人の育った頃と今の子どもたちの環境は大きく異なります。講演会に参加して、私たちは自らの経験値（今までは…私の頃は…）のみで対応するのではなく、常に時代にあった方法にアップデートをしなくてはならないことを再認識することができました。

